

新人戦大会 <男子>高輪 <女子>東海大菅生が優勝 全国選抜へ

大会結果 *ベスト16以上の決勝トーナメントの結果についてはHPをご覧ください。

	男子団体戦	女子団体戦
優勝	高輪	東海大菅生
準優勝	国士館	淑徳巣鴨
3位	郁文館 日体荏原	都篠崎 修徳
敢闘賞	足立学園 京北 國學院大學久我山 本郷	国士館 八王子実践 都小金井北 都富士

<男子決勝結果> 《優勝 高輪高校》 12月27日 於東京武道館



	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
高輪	佐々木	兵藤	小林	三谷	長谷川	2	5
	▲	メ		ト	メ		
国士館	引分	メ	引分	メ		0	1
	▲			▲			
	曾我野	坪倉	古屋	鈴木	西澤	勝数	本数

<男子決勝戦 試合経過>

- ・先鋒戦：曾我部の逆胴を皮切りに激しい攻防が続く。しばらくして、膠着状態となり、曾我部の鏝競り合いの反則。中盤、佐々木に惜しい出ばな面がある。
- ・次鋒戦：坪倉の攻めに対して、兵藤が出ばな技を狙う展開で試合が進む。坪倉は連続技、引き技と積極的に技を出す。兵藤がうまくかわす。中盤、坪倉の小手を抜いて兵藤が面を決める。二本目開始直後、兵藤が出ばな面を決めて二本勝ち。
- ・中堅戦：互いに中心を取り合う攻防が続く。小手を中心に打ち合うが、有効打突に至らないまま中盤へ。古屋の面、小林のすりあげ面など惜しい技が続く。再び中心を取り合う攻防が続くが、時間切れで引き分け。
- ・副将戦：互いに気の充実した攻防が続く。鈴木の場合反則後すぐ、三谷が抜き胴で先行する。挽回したい鈴木は、果敢に攻めるが一本にならない。三谷も守ることなく小手、出ばな技で応酬する。ややあって鈴木の出ばな面が見事に決まりタイに。再開後、激しい攻防が続くが有効打突に至らず、時間切れ引き分け。
- ・大将戦：引き分けか一本取れば優勝が決まる高輪に対し、二本勝ちで代表戦という苦しくなった国士館。開始直後、西澤の出ばな面が惜しくも決まらず。長谷川も連続技、体当たり技で応酬する。ややあって、長谷川の引き面が決まる。再開後、チームの勝敗は決しているが、互いに気の充実した攻防が続く。中盤、長谷川が再び引き面を決めて勝負あり。

<優勝校キャプテンに聞く> 高輪高等学校 小林選手

Q：今の素直な気持ちは？

A：優勝は当然と考えて稽古して来た。嬉しいことは嬉しいが通過点です。選抜で優勝したいです。

Q：今日の試合で心がけてきたことは？

A：逃げない。前で剣道をすることです。

Q：勝因は？

A：皆で一丸になったことです。

Q：今後の大会や稽古に向けて？

A：選抜を目標にして、選抜前にある色々な大会でも上位入賞を目指して頑張りたいです。



	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将		
東海大菅生	大野	和田	清水	坂田	志村	勝数	本数
		メ コ	▲ メ	メ メ	メ メ	4	7
淑徳巣鴨	引分			コ ▲		0	1
	中屋	井口	小林	伊東	荻原	勝数	本数

<女子決勝戦 試合経過>

- ・先鋒戦: 開始早々、大野が小手、中屋が面を中心に攻め合うも有効打突に至らない。膠着状態がややあって、連続技の応酬で試合に動きが出た。中盤、中屋の出ばな小手、面と惜しい技が続く。大野も担ぎ面などで反撃するが一本ならず、引き分け。
- ・次鋒戦: 互いに相手の技をうまくかわして、技につなげる。ややあって、和田の出ばな面が見事に決まる。やや鏢競り合いが長い試合展開が続く。中盤、攻め入った和田が、相手の手元が上がったところを小手に決め、勝負あり。菅生がリードする。
- ・中堅戦: 挽回したい小林は、面、小手と果敢に攻める。清水も負けまいと打ち返す。中盤、清水に場外反則。再開後も小林は面、清水は相面と互いに技を出し合うが一本にならない。終盤、清水が小林の小手を返して面あり。その後、小林をも取り返そうと技を出す、清水がうまく間合いをつかみ打たせない。そのまま時間切れで、清水の一本勝ち。
- ・副将戦: 開始早々から、伊東の余しての小手、坂田の面と惜しい技が続く。ややあって、伊東が出ばな小手で先制する。坂田は取り返そうと面、小手を中心に反撃する。伊東に竹刀放しの反則。再開後、坂田の大きく入っての面が一本となる。激しい攻防が続くなか、坂田が面を決め勝負あり。菅生の勝利が決まった。
- ・大将: 上段の荻原に対して志村が間合いを詰めて攻める。荻原も間合いをうまく取り、打たせない。ややあって、志村が鏢競り合いから引き面で一本あり。再開後、激しい攻防が続くなか再び志村の引き面が決まり、勝負あり。

<優勝校キャプテンに聞く> 東海大学菅生高校 志村選手

Q: 今の素直な気持ちは?

A: ずっと選抜を狙ってきたので、チーム全員でうれしい気持ちを共有しています。

Q: 今日の試合で心がけてきたことは?

A: とにかく自分に勝負がまわってきて、あきらめないで戦い抜くことを心がけました。

Q: 勝因は?

A: 稽古だけでなく、トレーニングや食事制限もみんなで乗り越えてきたので、心が一つになって戦ったことが勝因だと思います。

Q: 今後の大会や稽古に向けて?

A: 東京都の他のチームのためにも1つでも上に行けるよう、がんばるつもりで。

訃報

都高体連剣道部調査研究広報部理事・青稜高校教諭の小山直彦先生が、去る平成23年9月27日、心筋梗塞のため急逝されました。享年37歳でした。謹んでお悔やみ申しあげます。先生は広報部の理事として、雑誌への試合報告をはじめ、剣道部便りの記事執筆、日本武道館での電光掲示板の操作など、多岐に渡り精力的に活動なさっていました。

亡くなる当日は、学校での文化祭反省会の後、代休を利用して趣味の小旅行に出かけ、ホテルにチェックインしている際、急に具合が悪くなり、救急車で病院に搬送されました。が、懸命の救命措置にも関わらず、二度と目を開けることはありませんでした。

生前の先生のご活躍に対し感謝申し上げるとともに、心から哀悼の意を表します。合掌。

